

【事業概要】

養殖水産動物保健対策推進事業

安里聖貴*, 玉城正国

本事業は安全な養殖水産物の生産、安定供給に寄与することを目的として、国の消費・安全対策交付金を受け実施した。主な業務内容は、養殖生産者に対し、養殖衛生管理、水産用医薬品の適正使用、食品衛生や漁場環境保全にも対応した助言、指導を行うとともに、疾病監視対策等を充実し、その効

率的・効果的な推進体制を構築することである。

本県では、「海洋生物毒等の監視の推進」と「養殖衛生管理体制の整備」の2つに取り組み、その事業内容と結果を報告する。

事業内容及び結果

(1) 海洋生物毒等の監視の推進

1) 海洋生物毒等のモニタリングのための調査分析

モニタリングの実施	17回	プランクトンモニタリング実施回数	12回
		天然二枚貝毒化モニタリング実施回数	5回

表1 貝毒原因プランクトンモニタリング結果 ※単位は cell/L. N.D.は不検出.

調査地点	原因種	2023年								2024年			
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
大宜味村	<i>Dinophysis caudata</i>	N.D	N.D	N.D	N.D	N.D	N.D	N.D	N.D	N.D	N.D	N.D	N.D
	<i>Alexandrium spp.</i>	N.D	N.D	N.D	N.D	0.04	N.D	N.D	N.D	0.04	0.13	0.07	N.D
うるま市 A	<i>Dinophysis caudata</i>	N.D	N.D	N.D	N.D	N.D	N.D	N.D	N.D	N.D	N.D	N.D	N.D
	<i>Alexandrium spp.</i>	0.09	0.02	N.D	0.02	0.03	0.02	0.03	0.08	N.D	0.17	N.D	N.D
糸満市	<i>Dinophysis caudata</i>	N.D	N.D	N.D	N.D	N.D	N.D	0.01	0.06	N.D	0.04	N.D	N.D
	<i>Alexandrium spp.</i>	N.D	N.D	N.D	N.D	N.D	N.D	N.D	N.D	0.05	N.D	N.D	N.D
国頭村	<i>Dinophysis caudata</i>	N.D			N.D			N.D			N.D		
	<i>Alexandrium spp.</i>	N.D			N.D			0.01			0.03		
本部町	<i>Dinophysis caudata</i>		N.D			N.D			0.05			N.D	
	<i>Alexandrium spp.</i>		N.D			N.D			N.D			N.D	
うるま市 B	<i>Dinophysis caudata</i>			N.D			N.D			N.D			N.D
	<i>Alexandrium spp.</i>			N.D			N.D			N.D			N.D

表2 貝毒分析結果

調査地域	対象	検体採取日	麻痺性貝毒 (MU/g)	下痢性貝毒 (mgOA当量/kg)
沖縄本島北部 大宜味村	カキ	2023年6月30日	2.0未満	0.01未満
		2023年10月27日	2.0未満	0.01未満
		2024年2月9日	2.0未満	0.01未満
沖縄本島北部 本部町	カキ	2024年2月9日	2.0未満	0.01未満
沖縄本島中部 うるま市A	カキ	2024年3月11日	2.0未満	0.01未満
沖縄本島南部 糸満市	カキ	2024年1月16日	2.0未満	0.01未満

2) リスク管理体制の整備

全国会議への出席	1回	漁場環境保全関係研究開発推進会議 「赤潮・貝毒部会」	令和5年12月4-5日
----------	----	-------------------------------	-------------

*E-mail : asatmski@pref.okinawa.lg.jp

(2) 養殖衛生管理体制の整備

1) 総合推進会議の開催等

全国会議等への出席	5 回	クロマグロ魚病対策 WEB 勉強会	令和 5 年 5 月 17 日
		漁場環境保全関係研究開発推進会議	
		(「有害物質研究会」)	令和 5 年 11 月 14 日
		九州・山口ブロック魚病分科会	令和 5 年 11 月 21・22 日
		水産動物防疫体制整備モデル事業報告会	令和 6 年 2 月 28 日
		全国養殖衛生管理推進会議	令和 6 年 3 月 8 日

2) 養殖衛生管理指導

プランクトン研修会への参加	1 回		
指導会議の開催	1 回	参加経営体数	11 経営体
巡回指導・防疫指導		指導経営体数	56 経営体

表 3 養殖対象種別経営体と養殖管理指導を行った養殖等経営体数の割合

養殖対象種別経営体数	養殖衛生管理指導を行った養殖等経営体数の割合 100%
① 魚類	35 経営体 (全 35 経営体)
② クルマエビ	18 経営体 (全 18 経営体)
③ ウナギ	1 経営体 (全 1 経営体)
④ スッポン	2 経営体 (全 2 経営体)

3) 養殖場の調査・監視

医薬品残留検査	1 回	1 経営体
---------	-----	-------

表 4 養殖ヤイトハタの医薬品残留検査結果

実施時期	検査方法	対象地域	対象魚	対象医薬品	検体数	結果
2024 年 3 月 4 日	公定法	与那城	ヤイトハタ	OTC	10	検出せず

OTC : 塩酸オキシテトラサイクリン

4) 養殖衛生管理機器の整備

書籍の購入

5) 疾病の発生予防・まん延防止

防疫指導 (魚病診断書の発行)	71 件	13 経営体
-----------------	------	--------

本事業において、九州・山口ブロック会議や全国養殖衛生管理推進会議に参加し、各県の魚病発生状況や傾向と対策および指導状況等の情報交換が図られ、効率的な魚病検査および指導につながった。また、有害プランクトン同定研修 (水産技術研究所) や近年、問題になっているⅢ型レンサ球菌症への魚病研修 (宮崎大学) により、貝毒プランクトンの知識や診断技術を習得できた。

貝毒原因プランクトンモニタリングは、12 回行い、周年で麻痺性貝毒・下痢性貝毒の原因プランクトンが確認できたが、細胞密度としては低値であった (表 1)。貝毒分析は、6

月、10 月、そして 1, 2, 3 月に天然のカギを採取し検査を行ったが、麻痺性貝毒、下痢性貝毒ともに検出限界以下であった (表 2)。養殖対象種別経営体数は、56 経営体で、養殖衛生管理指導を行った養殖等経営体数の割合は 100%であった (表 3)。医薬品残留検査では、養殖ヤイトハタ 10 検体入手し、塩酸オキシテトラサイクリンの残留検査を行ったが検出されなかった (表 4)。令和 5 年度の備品の整備において書籍を購入した。本事業により各養殖業者に対して適切な養殖衛生管理技術指導を継続的に行うことで、県産養殖生産物の安全性を維持し、安定生産に寄与している。